

トヨタ財団シンポジウム

みんなと考える メンタルヘルス

—「アスリート」という生き方を事例に—

2023年2月22日(水)
14:00~17:00(開場:13:30)

ハイブリッド開催

会場：東京国際フォーラム ホール D7

オンライン：Zoom ウェビナー

(後日アーカイブ版 動画配信予定)

うつ病などのメンタルヘルス不調は誰でもなり得る心の病気ですが、アスリートにとってもそれは例外ではありません。しかしとりわけ「強さ」が求められるスポーツの世界では、これまで積極的に議論されてきませんでした。

今回のシンポジウムでは、専門家に加えて、五輪メダリストなどのトップアスリートを登壇者に迎え、アスリート自身が情報発信の担い手となり、メンタルヘルスの課題に自分事として向き合うことの大切さについて考えます。専門家とアスリート、そして参加者が、一緒にメンタルヘルスについて考え、学び、語り合うことで、メンタルヘルスへの理解を深め、それぞれのウェルビーイングと、より良き未来に向けたヒントに出会えることを願っています。

本シンポジウムは、トヨタ財団が支援するこの二つの助成プロジェクトの成果に基づいて行われます。

小塩 靖崇

「アスリートの、アスリートによる、みんなのための、メンタルヘルス教育プログラムの開発」
(D22-PI-0002: 2022年10月~)

よわいはつよいプロジェクト
<https://yowatsuyo.com/>



山下 慎一

「プロスポーツ選手の「2つの引退」から、働き方と社会保障の関係を考える：イノベティブな社会を支えるために」
(D19-PI-0015: 2019年4月~)



「社会保障のトリセツ」

対象

アスリート、プロスポーツ選手、スポーツ関係者、スポーツに関心のある大学生・高校生、教育関係者、研究者など本テーマに関心のある方

プログラム

14:00-14:15 開会挨拶・応援メッセージ

小平 信因・有森 裕子・室伏 広治

14:15-14:45 第1部 アスリートと考える次世代のメンタルヘルス

①アスリートと若者のメンタルヘルス/小塩 靖崇

②よわいはつよいプロジェクトの紹介/小塩 靖崇・川村 慎・吉谷 吾郎

14:45-15:30 第2部 アスリートを取り巻くメンタルヘルスの課題

①トップアスリートのメンタルヘルスとキャリアの課題/田中ウルヴェ 京

②憲法学から考えるアスリートへの誹謗中傷対策/小川 亮

③アスリートの「2つの引退」と就労・社会保障/山下 慎一

15:30-15:45 休憩

15:45-16:55 第3部 アスリートと一緒に考えるみんなのメンタルヘルス

田中ウルヴェ 京・小塩 靖崇・山下 慎一・川村 慎・松田 文志

16:55-17:00 閉会挨拶 / 羽田 正

アスリートや専門家に
質問しよう!

第3部では会場の皆さんからの
質問を直接お受けします
またこちらのQRコードにて
事前質問も受け付けています



主催

公益財団法人トヨタ財団

後援

厚生労働省・スポーツ庁

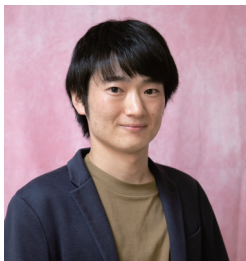


みんなと考える メンタルヘルス

—「アスリート」という生き方を事例に—



登壇者紹介



小塩 靖崇

国立精神・神経医療研究センター
研究員

2009年三重大学医学部看護学科卒業後、臨床を経て、17年東京大学大学院教育学研究科修了(教育学博士)。同年より現職。若年層のメンタルヘルス研究に従事し、学校でのメンタルヘルス教育教材の開発ほか、アスリートのメンタルヘルス支援プロジェクトの立ち上げに尽力。若年層が健康かつ幸せに育つ社会を目指し、研究と実践の橋渡しを行う。



山下 慎一

福岡大学法学部 教授
(社会保障法学)

九州大学法学部卒業。同大学院法学府博士後期課程単位取得満期退学ののち博士(法学)の学位を取得。2016年度日本社会保障法学会奨励賞、第15回(2021年度)社会倫理研究奨励賞受賞。近著に、日本の社会保障のしくみと使い方をイラストで分かりやすく紹介する書籍「社会保障のトリセツ」(弘文堂、2022年)。



田中ウルヴェ 京

スポーツ心理学者(博士)
五輪メダリスト

1988年ソウル五輪シnokロ・デュエット銅メダリスト。引退後、日・米・仏の代表チームコーチを10年間歴任。米大学院修士修了(スポーツ心理学)。2021年慶大院で博士号(システムデザイン・マネジメント学)。トップアスリートから経営者、医師等の心理コンサルティングに携わる。慶大特任准教授、IOCマーケティング委員などを務める。



川村 慎

横浜キャノンイーグルス所属
プロラグビー選手

慶應義塾大学法学部政治学科卒業。2010年博報堂入社、同年NECに転職しグリーンロケッツ東葛に加入。2016年日本ラグビーフットボール選手会を立ち上げ、副会長を4年・会長を2年務める。2022年5月末に会長退任後はJPDP/よわいはつよいプロジェクトなどを中心に、社会課題に対してアスリート及びスポーツができることを模索しながら活動中。



松田 丈志

JOCアスリート委員長
五輪メダリスト

アテネ大会より4大会連続オリンピック出場、4つのメダルを獲得した元競泳選手。現在はJOC理事・アスリート委員長のほか、日本サーフィン連盟理事、JADAアスリート委員などを務め、スポーツの価値向上に努めている。また、スポーツジャーナリストとして執筆、講演なども積極的にこなしている。



小川 亮

東京都立大学法学部 助教
(憲法学)

東京大学法学部政治学専攻科博士課程修了。博士(法学)。2020年度日本法哲学会奨励賞受賞。公法学を哲学の知見を用いて問いなおすことで、具体的問題に対して適切な解決を与えることに関心がある。近時は、実務上の発展が著しい情報法の理論的基礎にも興味を持っている。



吉谷 吾郎

クリエイティブ・ディレクター
コピーライター

「よわいはつよいプロジェクト」共同設立者、日本ラグビー選手会事務局、厚生労働省「心のサポーター養成事業」外部評価委員、一般社団法人アプロプロジェクト理事。これまでの仕事にラグビーW杯「4年に一度じゃない。一生に一度だ。」湘南ベルマーレ「たのしめてるか。」などスポーツ界でも幅広く活躍中。

《開会挨拶》小平 信因(トヨタ財団 会長)

《応援メッセージ》



有森 裕子

(トヨタ財団評議員、スペシャルオリンピックス日本理事長、五輪メダリスト)

元マラソン選手。バルセロナ、アトランタオリンピック両大会の女子マラソンメダリスト。スポーツや教育を通して被災地や紛争地の子ども、障がい者を支援する「ハート・オブ・ゴールド」代表理事、知的障害者にスポーツを提供する。「スペシャルオリンピックス日本」理事長、大学スポーツ協会副会長なども務める。



室伏 広治

(スポーツ庁長官、東京医科歯科大学特命教授、五輪メダリスト)

陸上競技のハンマー投げ選手として2000年シドニー、2004年アテネ、2008年北京、2012年ロンドン五輪に出場。アテネ五輪では陸上・投擲種目でアジア史上初の金メダルに輝いた。現役中の2007年に中京大学大学院体育学研究科にて博士号を取得。2011年同大学スポーツ学部にて准教授を務める。2014年には東京医科歯科大学にて教授を務めると同時に、スポーツサイエンスセンターのセンター長にも就任した。また、2014年に東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会スポーツディレクターに選任され、2020年10月より現職に就く。

《開会挨拶》羽田 正(トヨタ財団 理事長)

《MC》杉崎 桃子



一部の登壇者はビデオ・オンライン参加になります。

お問い合わせ

公益財団法人トヨタ財団 研究助成プログラム

〒163-0437 東京都新宿区西新宿2-1-1 新宿三井ビル37階

Email: kenj@toyotafound.or.jp

URL: <https://www.toyotafound.or.jp/>

シンポジウムの感想をお聞かせください!

アンケート回答者の中から抽選で
プレゼントをさしあげます



<https://forms.gle/gPy1JwyTbMPavznw9>